甑島で、暮らす。

こしきしま

鹿児島県 甑島移住ガイドブック

東シナ海に浮かぶ甑島（こしきしま）列島。
自然豊かな環境と共に暮らす日常がここにはあります。
集落を歩けば季節の移ろいを感じ、どこか懐かしい風景に心が和む。
都会のような便利さや、観光地のようなキラキラとした眩しさはありません。
だけど、どっしりと根を張るアコウの木のように、
落ち着いて大切なものと向き合える場所です。
ないものではなく、ここにあるものと生きる。甑島で暮らしてみませんか。

目次

4 甑島の基本

8 お試し移住してみました！

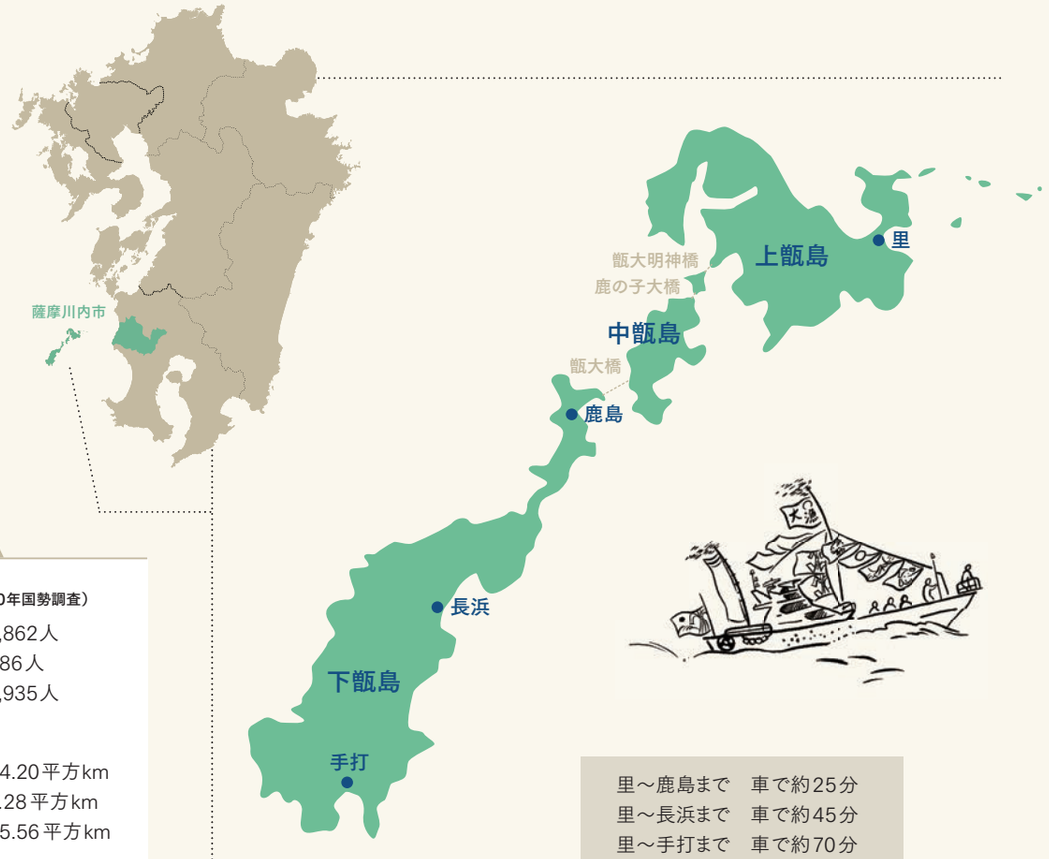
10 移住の先輩に聞く
甑島での暮らし、どうですか？

13 甑島のここが好き！

14 INFORMATION 住む
15 INFORMATION 生活する
16 INFORMATION 働く
17 INFORMATION 育てる
18 INFORMATION 医療・福祉

19 さあ、甑島で暮らしてみませんか？

甑島の基本



里～鹿島まで　車で約25分
里～長浜まで　車で約45分
里～手打まで　車で約70分

DATA

人口（2020年国勢調査）
上甑島：1,862人
中甑島：186人
下甑島：1,935人

面積
上甑島：44.20平方km
中甑島：7.28平方km
下甑島：65.56平方km

鹿児島本土から西へ約30km。薩摩川内（せんだい）市に属する甑島列島は、上甑島、中甑島、下甑島と縦に連なる3つの島で構成されています。その全長は約35km。2020年に甑大橋が開通し、列島間を陸路で気軽に行き来できるようになりました。本土からは高速船で最短50分とアクセスしやすく、鹿児島では数少ない、本土と日帰りで往来できる離島です。

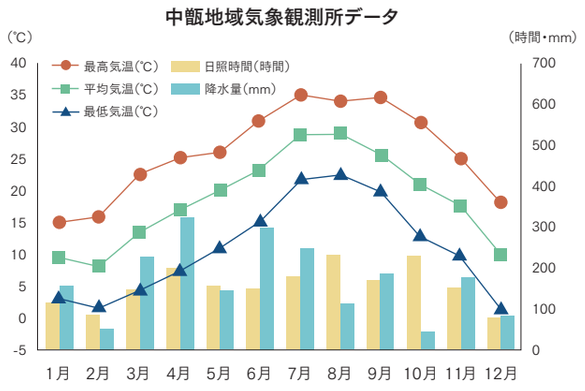
主要産業は水産業で、ブリやキビナゴ漁が盛ん。風光明媚な景観は国定公園にも指定されており、古くは8000万年前の地層から形成された断崖や巨岩など、ほかでは見られないダイナミックな自然が魅力です。

島内には里、上甑、鹿島、下甑の4つの地域があり、その中に小さな地区・集落があります。現在は道路が整備され陸路で往来できますが、かつては移動手段が船に限られていた集落も。そのためエリアごとの特色が強く、同じ甑島の中でも大きく印象が異なります。

気候

薩摩川内市全体の年間平均気温は18.6℃。甑島の気温は本土と比べると年間通して温暖ですが、海からの風で体感温度は低く感じます。“鹿児島の島”と聞くと、常夏のイメージがあるかもしれませんが、冬は防寒着や暖房器具が欠かせません。
また年間通して降水量が多く、夏から秋にかけては毎年多くの台風が接近します。

資料：鹿児島地方気象台（2022年）



上甑島・中甑島

里地区の風景

里地区の武家屋敷通り

スーパーが並ぶ中甑集落

低くなだらかな山なみが女性的とも表現される上甑島。中甑島は上甑島と橋でつながっているため、すぐに行き来することができます。
上甑島の北東部にあるのが、甑島列島で人口が最も多い里地域です。また上甑島と中甑島にまたがって上甑地域があります。上甑地域はいずれも小さな集落なので、それぞれ独特の文化や言葉などが強く残っています。一方で日用品を買えるお店がない集落もあり、車がないと生活が不便に感じられるかもしれません。

主な地区と集落

里地区　1,007人
港があり甑島列島で一番人口が多い。武家屋敷通りの玉石垣がシンボル。商店や郵便局、ATM、コインランドリー、飲食店などが集まり便利。移住者が多いのも特徴。

上甑地区

中甑集落　377人
銀行や官公庁など様々な公共施設やスーパー、学校などが集まる上甑島の中心地。

平良集落　189人
中甑島唯一の集落。平良漁港を中心に形成された小さな港町。細い路地と平屋の集落群が特徴的。

下甑島

白い砂浜が続く手打地区

秘境のような瀬々野浦地区

西側エリアに続く断崖

荒々しく険しい山なみや断崖が男性的な印象がある下甑島。北部には鹿島地域が、南部には下甑地域があります。人口の多い集落は、本土に近い東側に集中。海からの強い風が吹きつける西側のエリアは、迫力ある断崖や険しい山が続き、その狭間に小さな集落がポツポツと存在します。

主な地区と集落

鹿島地区　331人
恐竜の化石が発掘されたことで注目される。甑島列島の中心部分に位置しており、北にも南にも移動しやすい。

長浜地区　599人
下甑島の中で一番人口が多い。港があり、昔から様々な人を受け入れてきた開放的な気質が漂う。航空自衛隊の分屯基地もある。

手打（てうち）地区　563人
かつては薩摩藩の貿易の拠点だったことから武家屋敷跡には美しい石垣が残る。『釣りバカ日誌』や『Dr.コトー診療所』など様々な作品の舞台やモデルにもなっている。

瀬々野浦地区　75人
甑島を代表する観光スポット「ナポレオン岩」をはじめ、巨大な岩や山などに囲まれた秘境感の強いエリア。

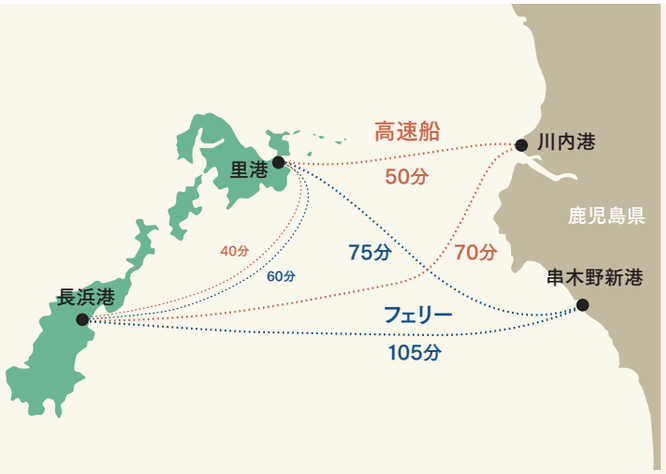
※各地区・集落ごとの人口は住民基本台帳（2022年8月1日）に基づく。

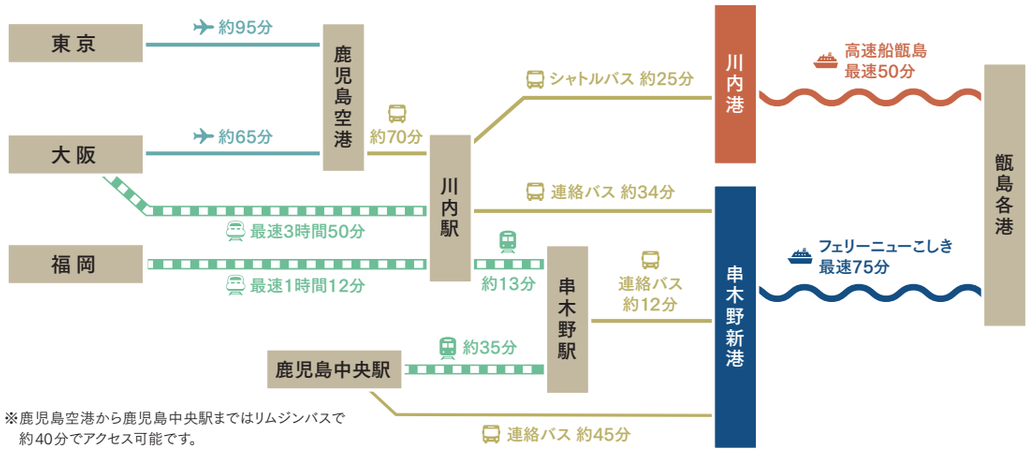
交通

本土と甑島との往来には、川内港からの高速船（1日2便）または串木野新港からのフェリー（1日2便）を利用します。いずれも島民の場合は、割引運賃が適用されます。

高速船甑島

フェリーニューこしき





※鹿児島空港から鹿児島中央駅まではリムジンバスで約40分でアクセス可能です。

高速船甑島

運賃

	大人	小人	甑島住民割引	
			大人	小人
川内港〜甑島各港	3,440円	1,730円	2,270円	1,140円
里港〜長浜港	2,420円	1,220円	1,490円	750円

運航時刻表

	1便		2便	
	下り	上り	下り	上り
川内港	8:50発	11:40着	14:30発	17:20着
里港	9:40着 9:45発			16:30発 16:25着
長浜港	10:25着	10:30発	15:40着	15:45発

フェリーニューこしき

運賃

	大人	小人	甑島住民割引	
			大人	小人
串木野新港〜甑島各港	2,340円	1,170円	1,580円	790円
里港〜長浜港	1,500円	750円	860円	430円

運航時刻表

	1便		2便	
	上り	下り	上り	下り
串木野新港	10:20着	11:15発	16:05着	16:30発
里港	9:05発 8:45着	12:30着 12:50発		17:45着 17:50発
長浜港	7:45発	13:50着	14:20発	18:50着

※運賃は消費税込の金額です。
※甑島住民は甑島発の往復切符を購入するとさらに割引が適用されます。
※高速船・フェリーともに例年1〜3月中に定期検査に伴う運休期間があります。
※高速船はGW、お盆などには臨時（増）便が出る場合があります。

上記ダイヤは2023年4月1日から適用されます。
2〜3月は改訂前のダイヤで運行いたします。詳細につきましては、甑島商船（0996-32-6458）にお問い合わせください。

甑島商船

KOSHIKI TRIAL STAY

お試し移住してみました!

甑島への移住を検討している方に島暮らしを体験してもらう「甑島トライアルステイ」を2022年10月に実施。
多数の応募の中から選ばれた2組の方に来島いただき、5泊6日のお試し移住をしてもらいました。
はじめての島暮らしでどんな気づきや出会いがあったのか。その様子をお届けします!

福井(ふくい) 慎(しん)さん(29)・美宏(みひろ)さん(30)

ともに大阪府出身・在住。勤務先の鉄道会社で出会い2022年に入籍したばかりの新婚夫婦。これからの暮らしを考えるなかで移住先を探している。慎さんの両親が薩摩川内市出身のため鹿児島には愛着が。甑島は2人で旅したことがあり今回で3回目の来島。

柴田(しばた) 優香(ゆうか)さん(25)

奈良県出身。東京都の不動産関係の会社で働く。高校の修学旅行で長崎県の離島を訪れたのをきっかけに、全国の島を巡るほどの島好きに。海が見えるところでの暮らしに憧れて島への移住を検討中。甑島は初来島。

life 甑島の暮らし

福井さん夫婦は上甑島・里の空き家で島暮らしを体験。スーパーへ買い物に出かけたり、島の人に教わってキビナゴの手開きに初挑戦したり、甑島での暮らしのイメージを膨らませました。
家は海から徒歩1分程のところ。海辺で朝ごはんを食べたり、夜は満天の星を眺めたり。島ならではの「海が近くにある暮らし」を満喫していました。

movie

甑島トライアルステイ
ダイジェスト動画公開中!

お試し移住中の様子をまとめた動画をYouTubeで公開しています。
甑島についてもっと知りたい方は、ぜひQRコードからご覧ください。

scenery 甑島の風景

ゆったり散歩したり、ぼんやり景色を眺めているときに感じる甑島の魅力。賑わいのある観光地とは違う、穏やかな甑島の風景に惹き込まれていました。

people 甑島の人々

甑島出身者からはディープな島の話を、移住者からは移住にまつわる本音を聞くことができました。

島の人が気さくに
声をかけてくれるのが
うれしい!

お試し移住を終えて

福井さん夫婦

初対面の僕たちにここまでしてくれるのか!と驚くくらい島の方が温かく受け入れてくれて、弟・妹かのように面倒を見てくれました。甑島での仕事や子育てについて不安を感じていましたが、島の方と話すことで少し解消されました。移住に向けて動き出したいと思います!

柴田さん

レンタカーの予約がいっぱいだったと島の方に話したら「うちの車を使っていいよ」と気軽に貸してくれたり、島の方の優しさ、温かさを感じました。島のいいところだけでなく、リアルな事情なども教えてもらえたおかげで、より深く移住について考えていくことができそうです。

移住の先輩に聞く

甑島での暮らし、どうですか？

上甑島・里

粘って出逢えた理想の住まい

加藤（かとう） 優輝（ゆうき）さん（31）・文香（あやか）さん（28）

優輝さんは埼玉県出身。プロアスリートのメンタルコーチ。文香さんは薩摩川内市の本土出身。スポーツメンタルを学べるオンラインコミュニティでコミュニティマネージャーを務める。ともにほとんどの仕事を自宅からオンラインで行う。

2人が“いい状態”でいられる唯一の場所

加藤さん夫婦が埼玉県から甑島への移住を決めたのは2021年5月。「プロアスリートのメンタルに関わる仕事をしているので、相手の些細な変化に気づくために自分自身が“いい状態”でありたいと思ってきました。広告や騒音がない場所への移住を考えたときに島が候補に上がり、いろいろ行ってみた結果、甑島がいいなと」（優輝さん）。「甑島が一番ほっとしたんです。その感覚が2人とも一致したから、ここに決めました」（文香さん）。

空き家はあるのに、住める家がない

移住を決意した2人の前に立ちはだかったのは、住める家がないという現実でした。空き家はあるけれども、「お盆や正月に親族が帰ってくる」などの理由で貸せない・売れない家がほとんど。加えて島内に不動産会社がないので、仲介してくれる人を見つけるのも困難です。それでも諦められなかった加藤さん夫婦はSNSで甑島在住者に何度も連絡をとり、ついに1軒の空き家を紹介してもらうことに。すぐに見学に行きましたが、残念ながらあまりしっくりきませんでした。「島に来ることが目的ではなく、自分たちが“いい状態”であることが目的。だからGOサインが出せなかった」と、もう一度振り出しに戻ります。

そこからさらに粘り続け、2022年3月、新たな家を紹介されます。「元々住まれていた方が島を離れるということで、壊す予定だったところを島の人がつないでくれました。見に来て、ひと目でいいと思える家でした」と即決で購入。2022年6月にようやく移住にこぎつけました。

大事なのは想いを伝え続けること

移住を決意してから家が見つかるまで10ヶ月。頑張れたのは支えてくれた島の人たちのおかげだと言います。「私たちも諦めなかったけど、島の人たちも諦めず、みんなで家を探してくれました。その姿勢が嬉しくて」（文香さん）。「とにかく島の人に『ここに住みたい』という想いを伝え続けました。あとはもうまかせて待つことしかできなかったけど、偶発的なことが重なって、巡り巡って今の家に出逢えたんだと思います。だから再現性はないかもしれないけれど、想いを伝えることが大事」（優輝さん）。

みんなで暮らす、安心感

移住後は、地域の人たちとの関わりを楽しみながら暮らしています。引っ越しの手伝いをしてくれたり、台風のときには様子を見に来てくれたり。時には勝手に玄関を開けて野菜や魚といったおすそ分けを持ってきてくれる人も。「みんなで暮らしている」という安心感が、2人を“いい状態”に導いているようです。

築50年の広々とした一軒家。居心地のいい縁側が2人の憩いの場に。

庭には立派な柿の木が。実った柿はご近所さんにおすそ分け。

住宅情報はP14へ

下甑島・手打

子どもと一緒に地に足をつけて暮らす

澤（さわ） 未恵（みえ）さん（48）

埼玉県出身。アウトドアスポーツの大会の運営やライフスタイルショップでの仕事などを経て、2021年に神奈川県葉山町から小学2年生の娘と2人で移住。地域おこし協力隊として下甑島の地域資源を利用した商品開発に取り組む。

小さくシンプル、生活するための島

海に歩いて行ける場所。澤さんにとってそれが住まい選びの条件でした。美しい海が人気の神奈川県葉山町に暮らしていましたが、より良い環境を求めて島への移住を検討していました。

そんなとき一緒に働いていた友人が下甑島の手打地区へ移住し、遊びに行くことに。「第一印象を正直に言うと、移住先としては悩ましいなと思いました。『本当に何もないんだ』と感じたから。だけど10日間友人の家で過ごして、生活を間近で見るうちにリアルな暮らしのイメージができたんです。これまで仕事で訪れた奄美や宮古島も魅力的だったけど、旅行や観光のイメージが強くて、私は浮足立っちゃって。ここは何もない分、自分たちの生活が落ち着いてできるのかなと」。

澤さんが移住にあたり重要視したのが子育ての環境。「実は最後まで奄美と迷ったんです。でも奄美だと学校も大きくなるし、世界も広くなる。なるべく小さくシンプルに、必要なものだけある場所の方が、娘にも私にもいいと思ったんです」。折よく手打地区に児童クラブができたり、診療所に新しい先生がやってきたり、環境が整ったことも決め手となりました。澤さん自身は地域おこし協力隊としての採用が決まり、2021年9月に移住。「今までで一番海に近い」という理想の場所での暮らしがはじまりました。

子どもを変えた島の環境

移住当初、手打小学校は全校生徒23人。神奈川で通っていた小学校と比べて1クラスの人数は約1/5になりました。「それがいいことなのか悪いことなのか、移住してきた時点でも悩んでいました。ほとんど賭けに近かったです。ダメだったらまた引っ越さないといけないと思っていたくらい」。

しかしその賭けは予想外にいい方向へ。恥ずかしがり屋で大人数の中にいると圧倒されがちだった娘さんが、甑島の環境の中で少しずつ変わっていきます。「たまたま本人に環境が合っていたんだと思います。前に出ていくようになりました。例えば朝学校に行くときに近所の人に挨拶をするとか、前はできなかった。最近は私が知らない人にも挨拶しているんです」と、目に見える成長に顔をほころばせます。

“島立ち”が親子の次なる目標に

甑島には高校がないため、中学を卒業した子どもたちは島の親元を離れ本土の高校に進学する“島立ち”を経験します。「最初はそんなの絶対無理！と思ってました。でも島立ちした子が帰ってきた姿を見て、思ったより悪くないなと。子どもがすごく自立しているなと思ったんです。ここのいいところって、船で1時間で本土から帰ってこれる。1年、2年会えないわけではないから」。

同じく最初は嫌がっていた娘さんも、今では島立ちを取材したテレビ番組を熱心に見ていたり、前向きに受け止める姿が見られるそう。「今は親子にとっての成長の機会と捉えています。都会にいたら絶対になかったことだから新鮮だし、親御さんに対してもお子さんに対してもすごいなと感銘を受けています。まだできるかわからないけれど、できたらいいなという2人の次の目標になっています」。

初来島時に澤さんが一目惚れしたという、芝生の校庭が広がる手打小学校。

娘さんも海が大好き。海辺の散歩やシュノーケリングが親子の大事な時間。

子育て情報はP17へ

上甑島・里

働くなかで感じる手触りのあるやりがい

こが　なるみ
古賀 愛深さん（25）

福岡県出身。ゲストハウス「FUJIYA HOSTEL」マネージャー。大学2年生のときに初めて訪れた甑島に魅了され、短期移住体験企画をきっかけに甑島で就職。いつか自分の宿を開くのが夢。

3ヶ月限定のつもりが、3年目の島暮らし

古賀さんが甑島へやって来たのは、まだ大学3年生のときでした。甑島で飲食店やゲストハウスなどを運営する「東シナ海の小さな島ブランド株式会社」が募集した3ヶ月限定の移住体験企画がきっかけ。春休みの間だけ同社のゲストハウス「FUJIYA HOSTEL」に住み込みで働きながらお試し移住をしてみようと、2020年1月に来島します。

しかしその後すぐにコロナ禍へ。大学の講義がオンラインで受けられるようになったことから、そのまま4年生の1年間も甑島で過ごすことに。昼間は学生、夜は宿で働くという生活を続けます。大学卒業後は同社の正社員に。気づけば甑島での暮らしは3年目を迎え、FUJIYA HOSTELのマネージャーとして日々、来島者をもてなしています。「何度も来てくれる方がいらっしゃったり、目の前のお客さんの喜ぶ顔が嬉しくて。手触りのあるやりがいがあったから、続けてこれたのかもしれません」と、甑島で働き続けることにした理由を振り返ります。

小さな島ならではの関係性

甑島に来て驚いたのが、人々の距離感の近さ。「スーパーでもガソリンスタンドでも、日常生活で会う人がみんな私のことを認識していて、『元気してる?』『ちゃんと食べてる?』って声をかけてくれるんです。自分だけじゃなくて、宿のお客さんにもそう。お客さんが海辺でバケツを運ぶのに苦労していたおばあちゃんを助けてあげたら、その夜おばあちゃんがお礼にバケツいっぱいの貝をもってやって来て。『助けてくれたアベックはここに泊まっているんでしょ?』って（笑）。そんな島ならではの顔が見える関係性がいいなって思います」。

距離感が近いコミュニティの場合、入っていくまでが苦労しそうですが、古賀さんの場合は先に仕事が決まった上で移住してきたためスムーズでした。「最初からどこに行っても“賢太（社長）のところの子”って言われて、すんなり受け入れてもらえました。仕事関係じゃなくても、先に頼れる人をつくってから移住すると馴染みやすいと思います。とくに私の場合は単身だったから、困ったときにすぐ頼れる人たちがいたのは心強かったです」。

生きる力が試される場所

現在、古賀さんは宿の仕事と並行して、甑島の魅力を発信するフリーペーパーの制作を行っています。「自分が惹かれた甑島の良さをもっとたくさんの人に伝えていきたい」と、今後の展望を語ります。「甑島は生きる力が試される場所だと思います。ないものはたくさんあるけれど、自分でつくろうと思えば何でもできる。季節のものを使って器用に料理するような、暮らしに根づいた知恵みたいなものが脈々と受け継がれていて。そういうものをもっと知りたいです」。

甑島にやって来た大学生のときには、魚を捌くのもおっかなびっくりだったという古賀さん。島の人に習いながら少しずつ覚え、今では宿の夕飯に自分で捌いた魚を出すように。甑島で着々と生きる力を蓄えています。

古賀さんとのおしゃべりを楽しみに宿を再訪する人も多く、すっかり甑島の顔に。

古賀さんが編集・デザインを手がけるフリーペーパー「KOSHIKI ZINE」。

就労情報はP16へ

甑島のここが好き！

何もない、だからこそ暮らしやすい

「甑島の魅力は、一度の来島ではなかなか伝わらないかもしれません。
暮らしてこそいい島。何もないからこそ、シンプルに落ち着いて暮らせる気がします」

「夜も眩しい明かりがついて、常に情報が流れている状態から離れられるところに甑島の良さがあると思います。ただ日没を眺めながらビールを飲む。それだけのことが贅沢に感じます」

「休みの日は特別な何かをやるより、身近にある自然を感じに行くことが多いです。幸せのハードルが下がって、自分たちにとっての本当の幸せに気づけるようになりました」

素朴だけど美しい日常の風景

「観光地の絶景を見たときに感じる『うわ、すごいな』という感覚と、甑島の景色を見て感じる『いいな』という感覚は違うと思うんです。絶景は心のなかからドバッと出る感じ、甑島はぽこぽこ湧いてくる感じ。ずっといるなら後者の方がいいなと」

「朝起きて窓から空をのぞいたら『今日めっちゃ燃えそう!』ってすぐに海に出ていって朝焼けをみて『ふぅ』ってできる。
自然の中に私たちがいさせてもらっている感覚を味わえます」

「海辺でぼーっと空を眺める時間が幸せです。
一秒一秒、空の色が変わっていくなんて、本土にいるときは気にしたこともなかった。
こんなに“今ここにしかない光景”ってあるんだなっていうのが、衝撃でした」

海が身近にある暮らし

「家から釣り場まで数分で行けます。とくにイカ釣りが最高！
鮮度がいい分、とにかく魚が美味しいです」

「仕事が終わって、そのまま汗だくですぐ近くの海に飛び込んでぷかぷか浮かぶのが夏の日常です」

知らない人同士でも挨拶

「車同士でもすれ違うときには頭を下げたり、知らない人でもみんな必ず挨拶することに驚きました。ちょっとした声かけが心地いいなと思います」

movie

移住の先輩に聞く
インタビュー動画公開中！

先輩移住者へのインタビューの様子をまとめた動画をYouTubeで公開しています。本誌では紹介できなかった、より詳しい内容もあり！
ぜひQRコードからご覧ください。

住む

甑島で住宅物件を探すのは容易ではありません。自力で探して所有者と直接交渉する必要があるなど、移住希望者は家探しに難航してしまう現実がありました。そこで2021年に生まれたのが、島内の不動産を管理する「島守株式会社」です。
そのほか行政が運営する空家バンクや市営住宅から探すという選択肢もあります。

家探しから移住までをサポート！
島守（しまもり）株式会社

甑島の空き家や遊休不動産等の保守管理・運用を行う民間不動産管理会社です。使われなくなった古民家を活用して未来へつなぐためのお手伝いをしています。
また、島で暮らしたいけれど誰を頼ったらいいのかわからないという移住希望者の相談窓口にもなります。家探しのサポートはもちろんのこと、島民とのパイプ役となり、島暮らしの実現を応援します。
すべては島の未来のため。集落のひと・こと・場を守り育てる。それが島守株式会社のミッションです。

島守株式会社

〒896-1101
鹿児島県薩摩川内市
里町里54番地（山下商店内）
電　話：09969-3-2212
メール：info@island-ecs.jp

お問い合わせ
詳しくは
ウェブサイトへ

空家バンク

所有者から登録いただいた空き家情報を、定住を目的とした方や、地域活性化に寄与しようとする方へ情報提供する制度です。

お問い合わせ
薩摩川内市建築住宅課
電話：0996-23-5111（代表）

市営住宅

住宅にお困りで、収入などの条件を満たす方が入居できる住宅です。空き状況に応じて毎月入居者募集を行っています。

お問い合わせ
薩摩川内市建築住宅課
電話：0996-23-5111（代表）

［ 補助金制度 ］

UIJターン者家賃等補助金

家賃1ヶ月分額の5/10×12ヶ月分（月額上限額1万5千円）
企業等から家賃補助等がある場合はその額を控除した額の5/10×12ヶ月分

薩摩川内市内の中小企業等に正規雇用されたUIJターン者（要件を満たした方）に対して、家賃の一部を支援する制度です。

お問い合わせ　薩摩川内市経済政策課　電話：0996-23-5111（代表）

定住住宅取得補助金
定住住宅リフォーム補助金

住宅を取得またはリフォームされた転入者を支援します（併用不可）。詳しい要件はお問い合せください。

お問い合わせ
薩摩川内市定住支援センター　電話：0120-420-200

※補助金の詳しい条件等はウェブサイトをご覧ください。

生活する

基本的な生活必需品は島内で調達できますが、輸送コストがかかる離島のため、全体的に価格はやや高め。また車社会のため車の維持費もかかってきます。ただし都市部とは生活スタイルが変わることで、物欲自体が抑えられて節約できるようになったという声も。島ならではの暮らし方を楽しんでいる人が多いようです。

生活費

食費

※2022年12月調べ。すべて税抜価格

鶏もも肉 100g……128円	卵L玉……239円
豚こま肉 100g……198円	牛乳 ……209円
カンパチ刺身12切……480円	クリームチーズ……429円
じゃがいも 1個……78円	ホットケーキミックス……199円
小松菜……128円	お米 5kg……1,580円

本土と比べるとやや高い食品が多い印象。とくにお肉は年間通して高くなりがちです。漁業が盛んな甑島ですが、島で獲れた魚は主に本土で消費されるため、島内での流通は少ないという事情も。ただし、ご近所さんからのいただきものなどのおかげで、食材に困らないという人も多いようです。

自治会費

自治会に加入する場合、自治会費を支払う必要があります。地区によって徴収方法や金額は異なります。自治会への加入は任意ですが、加入した方が近隣の方とのコミュニケーションがとりやすくなるのでおすすめです。

光熱費・ガソリン

※ガソリンは2022年12月調べ。
ほかは2人暮らし家庭の2022年参考値

電気……8,000円/月	水道……1,915円/月
ガス……4,524円/月	ガソリン……172円/L

雨が多い甑島では、梅雨から夏の時季は湿気に悩まされます。カビ防止のために一日中除湿機を使っているという家庭も。冬は暖房器具が必要不可欠なため、結果的に年間通して電気代が高くなりがちです。ガスは甑島全土でプロパンガスのため、都市ガスと比べると高め。水道は水道料金とは別に下水道料金が使用量に応じてかかります。
輸送コストがかかるガソリンは、小売価格を抑える国の支援措置が施されています。しかしそれでも本土と比べると高めです。

スーパーはクレジットカードやキャッシュレス決済が使えるところも多いです。食費は近所の方が魚や野菜をおすそ分けしてくれるので助かっています。

加藤 優輝さん・文香さん

交通

甑島と本土の往来には、1日計4便の高速船とフェリーを利用します（P6参照）。最短50分で行き来できるうえ、島民は運賃の割引があるので、買い物や通院などのため気軽に本土へ渡っている人が多い印象です。ただし台風などで海が荒れると船が止まってしまうため、一切島から出られなくなることもしばしば。また物資も止まってしまうので、日頃からの備えが重要です。
島内での交通はコミュニティバスが運行していますが、1日4～8本と本数が限られるため、ほとんどの島民がマイカーで移動しています。狭い道が多いので、慣れるまでは軽自動車がおすすめです。

通信環境

携帯電話の電波は、甑島のほとんどのエリアで概ね良好です。本土と同様に山間部など一部地域でのみ電波が入らないことがあります。
ネット環境は、2022年に全エリアで光回線が整備されました。本土と変わらないネットスピードでインターネットを利用できるので、リモートワークなど働き方の選択肢が広がっています。

［ 補助金制度 ］

結婚新生活支援補助金

住宅の取得費用、賃借費用、引越費用、リフォーム費用の全額（上限30万円）

新しく結婚した世帯に対し、結婚に伴う新生活のスタートにかかる新居の住居費や引越費用、リフォーム費用を支援します。

お問い合わせ
薩摩川内市コミュニティ課　電話：0996-23-5111（代表）

※補助金の詳しい条件等はウェブサイトをご覧ください。

働く

甑島で仕事を探す場合、一番ハードルが低い方法はハローワークの利用ですが、求人数はあまり多くありません。しかし直接島で聞いてみると、公には求人を出していないだけで、働き手を求めている会社がたくさんあります。移住前にこうした求人情報を知るには、来島時に飲食店など地元の人たちが集まる場所へ積極的に足を運び、仲良くなるのがおすすめ。顔見知りになることで、仕事を紹介してくれるかもしれません。

ハローワーク

求人・求職マッチングナビ
Job! 薩摩川内

ハローワークでの求人例

ホテルフロント……月給21万円
保育士……月給15～19万円
看護師……月給20～22万円
介護職員……月給16～19万円
土木施工管理技師……月給32～41万円
スーパー（パート）……時給887円
ホテル（パート）……時給950円

※2022年11月～2023年1月時点

地域おこし協力隊という選択肢もあり！

地域おこし協力隊は、地方に移住し地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。甑島では3人の隊員が活動しています。（2023年1月現在）

お問い合わせ　薩摩川内市企画政策課　電話：0996-23-5111（代表）

地域おこし協力隊なら、仕事も住む場所も一度に見つかります。リモートで島外の仕事をすることも考えましたが、島内で働くと様々な人との接点を持ちやすいのが魅力です。

＼私も協力隊です／

澤 未恵さん
（地域おこし協力隊 下甑島地域担当）

［ 補 助 金 ・ 支 援 制 度 ］

創業・チャレンジ支援補助金

1企業者1年あたり　融資額1,000万円以内に対する利子を補助
融資額500万円以内に対する保証料を補助
※融資額が上限額を超える場合は、利子及び保証料の金額を按分します

新たに起業される方、事業の拡大や事業承継を希望される中小企業者向けに、融資資金の一部を補助します。

お問い合わせ　薩摩川内市経済政策課　電話：0996-23-5111（代表）

農業・漁業・林業への就業支援

お問い合わせ　薩摩川内市農業政策課・耕地林務水産課
電話：0996-23-5111（代表）

かごしま移住就業・起業支援事業

東京圏から鹿児島県へ移住し、就職または起業した方へ支援金を支給します。

お問い合わせ　鹿児島県産業人材確保・移住促進課
電話：099-286-2990

移住支援金
制度のご案内

※補助金・支援制度の詳しい条件等はウェブサイトをご覧ください。

育てる

小さなコミュニティのため地域全体での子育てが特徴です。学校は少人数だからこそ先生の目が行き届き手厚い指導が可能。中学卒業後は島内に高校がないため、親元を離れて本土に進学する“島立ち”を経験します。

お問い合わせ　＜学校・幼稚園＞薩摩川内市甑島教育課　電話：09969-2-0001
＜保育所・児童クラブ＞薩摩川内市子育て支援課　電話：0996-23-5111（代表）

※幼稚園の入退園手続きや児童クラブの募集状況、入退所の手続き等詳細については各幼稚園、各児童クラブにお問い合わせください。

学校

1学年あたりの人数は、小学校が10人以下、中学校が10人前後。複数の学年が同じ教室で授業を受ける複式学級も一部取り入れられていますが、学習内容はほかの学校と変わりません。また遠方の生徒向けにスクールバスの運行があります。

小学校

- 里小学校（上甑島・里）
- 中津小学校（上甑島・中甑）
- 鹿島小学校（下甑島・鹿島）
- 長浜小学校（下甑島・長浜）
- 手打小学校（下甑島・手打）

中学校

- 里中学校（上甑島・里）
- 海星中学校（下甑島・青瀬）

児童クラブ

- 里きらきら児童クラブ（上甑島・里）
- こしきひまわり児童クラブ（下甑島・手打）

幼稚園

- 里幼稚園（上甑島・里）
- 中津幼稚園（上甑島・中甑）
- かのこ幼稚園（下甑島・青瀬）
- かのこ幼稚園鹿島分園（下甑島・鹿島）

保育所

- 里保育園（上甑島・里）
- 下甑保育園（下甑島・青瀬）

都会と比べると様々な面において選択肢は少ないですが、まわりの人たちが一緒に育ててくれるから心強いです。病気になったときが心配でしたが診療所もあるし、いざとなったらすぐ本土に行けます。

澤 未恵さん

［ 補 助 金 制 度 ］

こしき子宝支援事業

検診・出産待機における旅費・宿泊費、緊急移送に要した実費の一部を助成

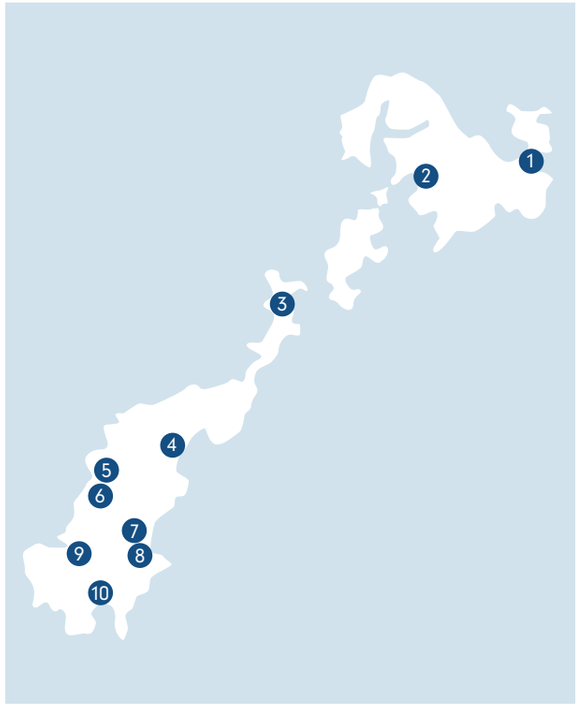
甑島の診療所には産婦人科がなく、本土からの往診もないため、妊娠時には本土に通院して検診を受ける必要があります。本事業では、甑島に居住する妊産婦が検診のため島外医療機関を受診する際の旅費等の一部を助成します。

お問い合わせ
＜申請について＞
上甑島：薩摩川内市甑島振興局　09969-2-0001
下甑島：薩摩川内市下甑支所　09969-7-0311
＜制度について＞
薩摩川内市市民健康課　0996-22-8811

※補助金の詳しい条件等はウェブサイトをご覧ください。

医療

医療に関する心配事が多い甑島ではありますが、基本的な診療や治療などは、各地域にある診療所にて対応しています。
また、島内には薬剤師が在籍するスーパーがあり、薬に関する相談をしながら市販薬の購入も可能です。（2023年2月現在）



診療所

甑島には地域ごとに12の国保診療所があります。歯科以外の専門診療科はないため、専門的な診断・治療を必要とする場合は本土の病院を利用することもあります。

1 …… 里診療所（上甑島・里）
2 …… 上甑診療所（上甑島・中甑）
3 …… 鹿島診療所（下甑島・鹿島）
4 …… 下甑長浜診療所（下甑島・長浜）
5 …… 下甑瀬々野浦診療所（下甑島・西山）
6 …… 下甑内川内出張診療所（下甑島・西山）
7 …… 下甑青瀬診療所（下甑島・青瀬）
8 …… 下甑歯科診療所（下甑島・青瀬）
9 …… 下甑片野浦出張診療所（下甑島・子岳）
10 …… 下甑手打診療所（下甑島・手打）

※このほか上甑浦内出張診療所と上甑平良出張診療所がありますが、現在休診中です。

里診療所

下甑手打診療所

ドクターヘリ

救急医療の専門医師と看護師がヘリコプターに搭乗し、救急現場等で傷病者に救命医療を行うとともに、医療機関に搬送します。速やかに必要な治療を行うことで、救命率の向上や後遺症の軽減、離島の救急医療体制の強化が図られています。
甑島は鹿児島市立病院が運営する県ドクターヘリの運航範囲内です。

※救急現場へのドクターヘリ要請は消防機関が行います。運航時間は原則午前8時30分から日没まで。

福祉

甑島には特別養護老人ホームや短期入所生活介護など各種福祉施設があります。また、敬老金の支給や介護用品の購入費助成、訪問給食サービスなどを通して、高齢者の生活を支えています。

介護支援事業

介護施設での詳細な介護サービス内容等については高齢・介護福祉課へお問い合わせください。

お問い合わせ　薩摩川内市高齢・介護福祉課　電話：0996-23-5111（代表）

敬老金支給事業

毎年9月1日現在で、引き続き1年以上住民登録をしている満88歳の方、満100歳以上の方、また市内最高齢になられた方に長寿を祝福し敬老金を支給します。

お問い合わせ　薩摩川内市高齢・介護福祉課　電話：0996-23-5111（代表）

さあ、甑島で暮らしてみませんか？

LET'S BEGIN YOUR NEW LIFE!

STEP 1

移住に関するお問い合わせ

まずはお気軽にお問い合わせください

補助金・支援制度に関するお問い合わせ

薩摩川内市定住支援センター
（企画政策課内）

〒895-8650
鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号
電　話：0120-420-200
メール：teiju@city.satsumasendai.lg.jp

空き家と仕事に関するお問い合わせ

島守株式会社　※引越し業者の紹介もあります。
〒896-1101
鹿児島県薩摩川内市里町里54番地（山下商店内）
電話：09969-3-2212　メール：info@island-ecs.jp

甑島地域雇用・移定住対策協議会
（薩摩川内市商工会里支所内）
電話：09969-3-2664

STEP 2

移住体験住宅でお試し移住

実際に甑島での暮らしを体験してみませんか

薩摩川内市では、移住を検討されている方が甑島での生活を体験できるよう、短期滞在のための住宅を用意しています。滞在を通して移住後の暮らしの具体的なイメージを膨らましてみましょう。

日数：6～30泊
料金：1住宅あたり6泊利用の基本料金12,000円
※7泊以上の場合、利用期間に応じた金額が加算されます。

お問い合わせ
薩摩川内市定住支援センター　電話：0120-420-200

先輩たちからのメッセージ

定住することを前提に考えると足が止まってしまう方もいると思います。私もそうでした。でも不謹慎かもしれませんが、少し軽い気持ちで移住してもいいんじゃないでしょうか。結果、私もすごく気に入って長くいたいと思うようになりました。

澤 未恵さん

移住を目的にするのではなく、その先にある「自分たちがどんな暮らしを大切にしたいか」という価値観の部分を明確にしてから移住することをおすすめします。移住はあくまで手段。目的・ゴールを設定することでより充実した暮らしが送れると思います。

加藤 文香さん

住んでみないと本当の良さはわからないので、まずは住んでみるのがいいと思います。ただし違ったと思ったときにどうするかだけは考えておいた方がいいかも。計画を立てた上で、ぜひ一歩踏み出してみてください。

加藤 優輝さん

まずは甑島での時間をじっくり過ごしてみてもらいたいです。島の人とのふれあいや日常の風景から気づくものがたくさんあるはず。あとは来てしまえばなんとかなります。踏ん張りすぎたりしなくても大丈夫。

古賀 愛深さん

2023年2月発行
【発行】鹿児島県北薩地域振興局総務企画部総務企画課／東シナ海の小さな島ブランド株式会社
【協力】薩摩川内市

この冊子は「令和4年度かごしま地域活性化協働推進事業」を活用し制作しました。

Director：平川 晴美（island company）
Design / Writing / Interview：吉満 瑞貴（dokkoi）　Photo：磯畑 弘樹　Movie：暁 将伍

かごしま移住・
交流ウェブサイト

鹿児島県
北薩地域振興局

薩摩川内市

island company.
ようこそ、東シナ海の小さな島へ

【企画・運営・問い合わせ先】
東シナ海の小さな島ブランド株式会社
〒896-1101 鹿児島県薩摩川内市里町里54番地
電話 09969-3-2212　メール info@island-ecs.jp